

リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会  
代表世話人 熊谷 清人 様 大坪 勇 様 北林 強 様

飯田市長 佐藤 健  
(リニア推進部)

「リニア中央新幹線駅周辺残土置き場に関連しての質問書」について(回答)

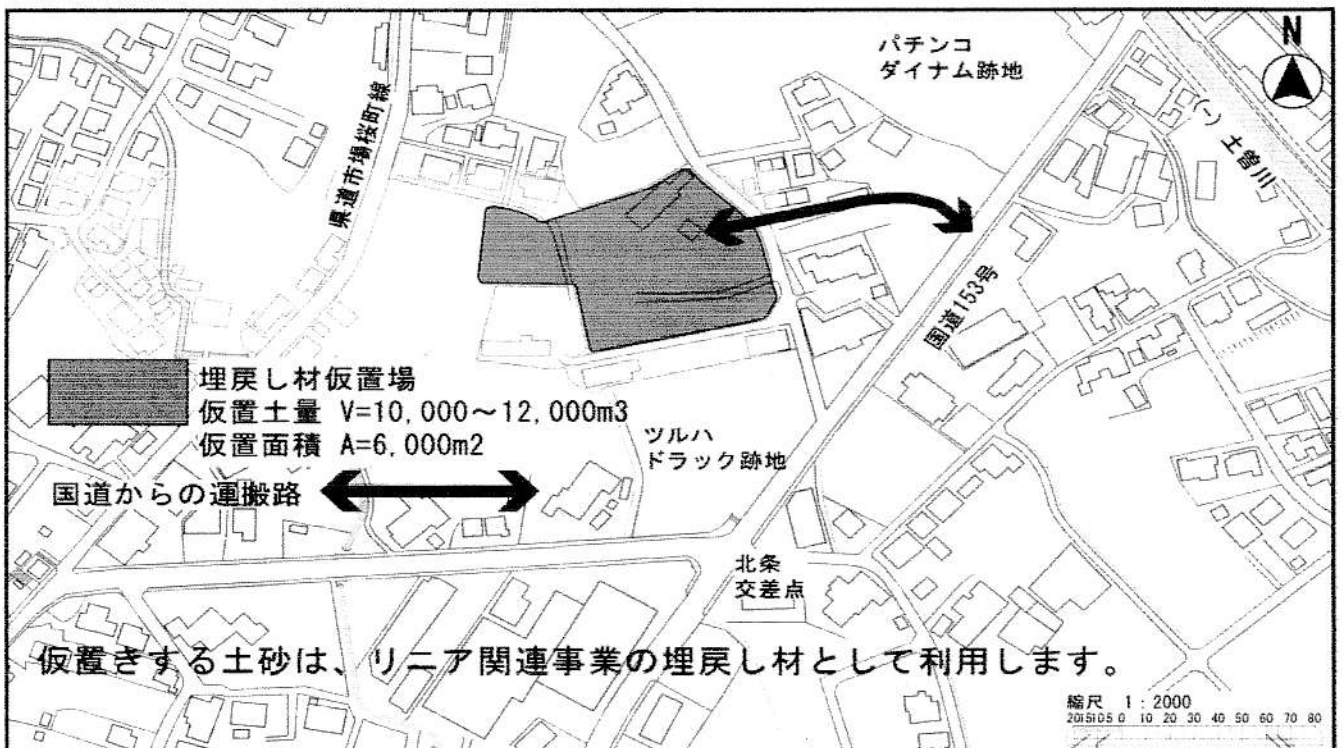
令和4年9月12日付けで受領致しました「リニア中央新幹線駅周辺残土置き場に関連しての質問書」に対しまして、下記のとおり回答致します。

記

1	ご質問事項	何の目的で置土するのか。
	回答内容	<ul style="list-style-type: none"><li>●リニア中央新幹線の建設工事に関連しては、道路や水路、あるいは代替地の整備等様々な工事が行われます。これらの各種工事の実施に当たっては、地下水位が高く比較的軟弱な地盤となっている現地の状況等も踏まえ、土の入れ替えや工事の際の埋戻しのために、事業目的に沿った良質な土を工事用資材として活用する必要があります。実際に、移転をお願いする皆様のために整備を進めてきた代替地についても、こうした土を活用して整備を進めてきているところです。</li><li>●今後については、直近では「土曾川横断道路の橋梁の整備」や「堂垣外橋の橋梁架替」の工事が、その後には、リニア駅前広場の南側に新設予定の「リニア駅前線(市道上郷485号線)」や、国道153号と新戸川との交差点から東西両方向へ新設する通称「イオン前道路(市道上郷489・490号線)」の整備工事が、さらに将来的にはリニア駅前広場の工事等も予定されていますが、これらの工事においても、こうした資材としての良質な土(以下「埋戻し材等」と表記します。)が必要となってくることから、この対応のために行うものです。</li></ul>
2	ご質問事項	置土の面積、土量など、どのような規模になるのか。
	回答内容	<ul style="list-style-type: none"><li>●「埋戻し材等」を仮置きする場所は、駅周辺整備事業区域内の南側で、現在までに飯田市で取得させていただいた用地の内の約6,000㎡を予定しています。</li><li>●また、仮置きする「埋戻し材等」の量は、10,000㎡から12,000㎡程度を予定しております。</li><li>●なお、土地をお譲りいただいた元々の地権者の皆様や、仮置き等で直接的な影響が生じる可能性のある近隣の皆様には、すでに本内容について説明申し上げ、ご理解を頂戴いたしているところですので申し添えます。</li></ul>

3	ご質問事項	松川工区から駅前広場（予定地）までの輸送ルート及び廃土運搬車両の通行日、通行時間、通行台数を明確にして下さい。
	回答内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「埋戻し材等」の運搬車両のルート、通行日、通行時間、通行台数については、JR 東海等と検討を重ね、今後関係地区との協議を行った上で説明させて頂くこととなりますが、ルートについては、現段階では、「飯田南木曽線→羽場大瀬木線→国道 153 号（アップロード）」というルートを想定しているところです。</li> <li>●なお、このルートにつきましては、これまでも喬木村のガイドウェイヤードの造成のために利用して参りましたが、今後についても、下市田産業用地造成等のために利用する予定です。</li> </ul>
4	ご質問事項	飯沼地区の交通事情は国道・県道の改修、駅工事、風越山トンネル工事が連続的に始まっており、これ以上の通行車両を増やすことは困難な状況です。このような状況でどのようにして住民の生活に影響を及ぼさないように対処していくのですか。
	回答内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「埋戻し材等」については、上記 1 に記載の様々な工事等で資材として利用することから、必要となる時期は各々の工事によって異なってくるようになります。</li> <li>●ご指摘の通り、他のリニア関連事業も含め、道路を通行する運搬車両台数を一時期に集中させることなく平準化することが、住民の皆様の生活に極力影響を及ぼさないようにする上で、大切なことと考えます。</li> <li>●つきましては、少し長期的なスパンで、工事関係車両の総体的な運行台数を勘案し、「埋戻し材等」等として活用する良質な土については、各事業の工事が本格的に開始される前に運搬を終え、駅周辺整備区域内の南側に仮置きできれば、国道や県道の交通渋滞の抑制も含め、住民の皆様の生活への影響を少しでも低減できると考え、提案させていただいているところです。</li> </ul>

### 埋戻し材仮置場



仮置きする土砂は、リニア関連事業の埋戻し材として利用します。